

**平成28年度 住宅地盤技士（設計施工部門） 正解および解説**

問題	正解	解 説
1	1	水成の堆積物はほとんど水平に堆積する。
2	3	地盤をみる P173 参照
3	1	しらすは南九州一帯に分布し、水に流されやすいなど侵食に弱い。
4	4	微地形区分 小規模指針 P89 参照
5	4	液状化の可能性は否定できない。
6	4	同一地形ではないため参考にならない。
7	2	電柱は軟弱な地盤では傾くことがある。
8	2	自沈時の回転は含まない。
9	1	トルクレンチによる補正方法はない。
10	1	一度乱されたロームは強度が著しく低下する。
11	2	敷き均しの層厚は 30cm 以下。
12	2	擁壁の安全性が確保されていなければならない。
13	4	構造上重要な部分ではない。基礎下端とすることが多い。
14	3	(1) 腐植土を残す (2) 盛土の圧縮沈下 (4) 伏流水のあるところでは適用不可
15	2	ねじり強さは鋼管外径、肉厚および材質によって決まる。
16	3	地下水に流れがあれば適用できない。
17	1	配合量は配合試験結果により決まる。
18	3	強度確認はできない。
19	2	根入れが確実に施工できなければ鋼管などに変更すべき。
20	3	転倒など自立性の安全のため対策が必要。
21	1	(2) 500~800kN/m <sup>2</sup> (3) 2.0m程度が原則 (4) いずれかに統一
22	4	掘削ビットと共回り防止板は含まない。
23	3	軸回転速度
24	3	軸径の 2.5 倍以内。
25	3	細長比の低減は 100 倍を超えてから考慮する。
26	4	鋼管径の 130 倍以内が原則。
27	1	芯ずれは 100mm 以内から基礎立ち上がり部よりはずれないこと。
28	2	プレボーリングした部分、盛土、有機質土部分では考慮しない。
29	4	個人情報の扱いに注意が必要。
30	2	吊り荷の質量ではなく、クレーンの能力で規定。